

松平家史料展示室 企画展

『史料からみる福井の災害』

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 松平家史料展示室
- 会期 令和3年1月28日(木)
～令和3年3月16日(火)
- 休館日 2月15日(月)、16日(火)、
3月8日(月)

近年、全国で毎年のように災害が発生し、多くの被害が出ています。災害の種類も、地震、火災、水害、台風など様々です。現代のように堤防、耐震建物、消火設備などの社会インフラが整っていても被害が発生しますが、それらが整っていない時代は、今以上に深刻な被害に見舞われました。

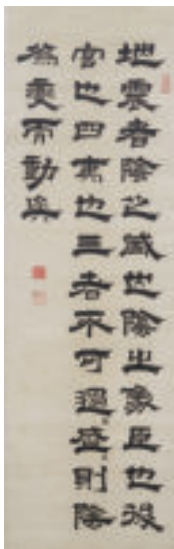
本展では、当館が所蔵する資料から、福井で発生した災害の様子を紹介します。

第1章 自然災害

自然災害には様々な種類がありますが、本展では「地震」、「水害」、「疫病」を取り上げます。幕末の安政期は全国的に地震が多く、福井・若狭でも安政元(1854)年11月に大地震があり、被害が出たとの記録が残ります。この頃は政情も不安定で、より一層、混迷の度合いを深めていきました。

また、福井の市街地は九頭龍川、足羽川、日野川に囲まれ、古くから水害に見舞われてきました。昭和23(1948)年6月には福井地震が起こり、その1ヶ月後に水害が起こるといふ二重の災難に見舞われたこともありました。

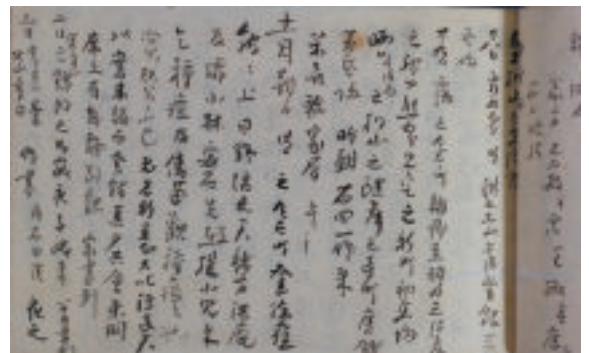
疫病は今も昔も人々の脅威であります。それに立ち向かった人もいました。幕末の町医師笠原白翁は、伝染病である天然痘の予防接種、種痘しゅとうを行うために尽力し、福井からこの病を追い払うのに貢献しました。



徳川斉昭筆「地震云々」詩幅
(福井市春嶽公記念文庫)



福井市内水害写真(当館蔵)

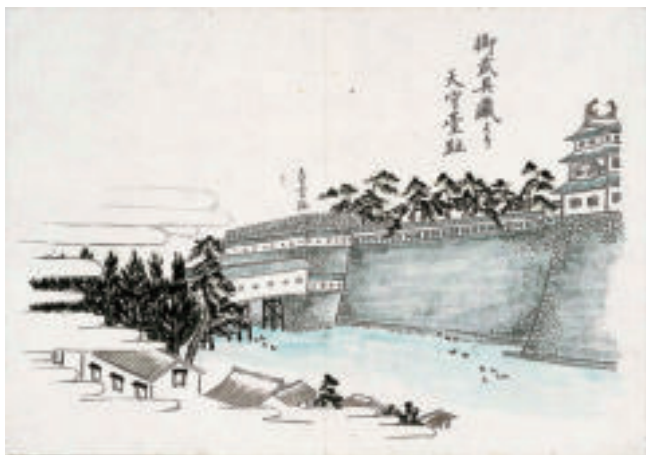


笠原白翁筆「戦兢録」第五巻(当館蔵)

第2章 火災

火災は江戸時代の記録に多く残っています。中でも、寛文大火と呼ばれる寛文9(1669)年に勝見村(現勝見町)で発生した火事は、春特有の強風にあおられて福井城下を中心に3,579戸が焼失しています。このときに福井城の建物のほとんどが焼け、4重5階の壮大な天守も焼失してしまいました。その後、被害を受けた門や櫓は再建されましたが、天守は再建されることはありませんでした。

明治以降も大火災はたびたび発生し、明治33(1900)年の九十九橋から南側の22町2村を焼いた橋南大火きやうなん、同35(1902)年の九十九橋の北側31町を焼いた橋北大火きやうほくは、当時の中心市街地を焼き尽くすという大災害となりました。



福井城旧景（当館蔵）



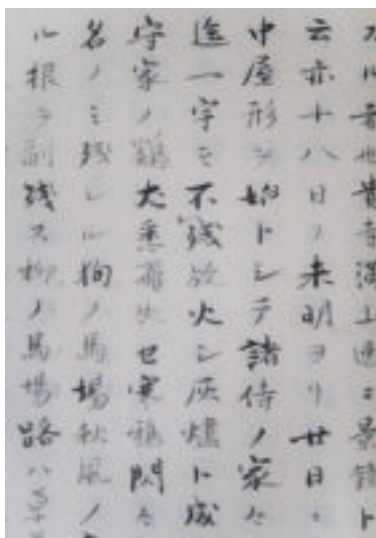
福井市街全図（当館蔵）
※明治～大正期の火災の範囲が記される

第3章 戦乱

第2次世界大戦以降、国内が戦場になることはありませんが、時代をさかのぼると、戦乱の多い時代がありました。特に鎌倉後期から戦国時代にかけては、全国的に争いが絶えず、福井でも多くの戦いがありました。その中で、新田義貞、朝倉義景、柴田勝家などといった有名武将が戦っています。江戸時代になると、戦いのない期間が長く続きましたが、幕末になると再び戦乱が始まりました。幸い福井は戦場になることはありませんでしたが、福井藩士が戦争に参加して死傷するなどの被害が出ています。



「国史画帖大和桜」義貞の最期（当館蔵）



「朝倉記」（当館蔵）



村田氏寿受傷の弾丸
（個人蔵、当館委託）

次回の展示

松平家史料展示室 企画展「KOSHIRAE ～拵～」

令和3年3月20日（土）～5月16日（日）

展示解説シート No.138

令和3年1月28日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489
担当 白嶋 祐司

印刷 宮本印刷